

岡野行秀教授退職記念号によせて

経済学部長・経済学会長 長谷部秀孝

岡野先生は2005年3月をもって退職となりました。先生は、1990年3月に東京大学を定年で退官なされた後、その年の4月より創価大学の教授として赴任されました。それから15年にわたり、経済学部の発展のために寄与して頂きました。

先生のご専門は交通経済論で、私と同じ政策部門にということになります。そこで、亡くなられた前任者の後を引き継ぎ、一緒に経済政策論を担当させて頂くことになりましたが、当時この科目は必修科目であり3人で担当することになっていました。新米であった私は試行錯誤を繰り返していましたが、度々学生から「岡野先生の経済政策論でこんなことを習いました。」という指摘を受け、あわてて自分の講義内容を見直した記憶があります。それほど岡野先生の講義は充実したものであって、学生にとって満足行くものでありました。先生は学生から絶大なる信頼を得ていらっしゃいましたし、それ以上に人気のある講義でした。

先生は非常に気さくなお人柄で、八王子の駅からのスクールバスの中ではよく同席させて頂いて、様々なお話を伺わせて頂きました。先生のご専門の交通問題に関しては非常におもしろいお話を伺うことが出来て、今でも国鉄の民営化、道路公団の問題などが思い出されます。さらに、赴任されてまもなく当時若手（学部内で相対的に）であった私たちをご自宅に招いて頂き、手料理をごちそうしてくださいました。学界では誰知らぬものがない大先生であった岡野先生のご厚意に、非常に感激したことを覚えております。その後、先生は毎年ゼミの学生を招待されて、同様なことをなさっていることを伺いました。学生たちはさぞかし幸せであったろうと思います。

先生のご専門の研究については、私がここで改めて説明することもないと思います。交通経済論の分野では第一人者であり、多数の業績を残されています。学界だけではなく、審議会等の委員を務められ、実際の政策面へ大きな貢献をなさっています。特に国鉄の民営化の際には大きな力を発揮されました。その研究スタイルは、私たちに大きなインセンティブを与えて頂いたと思っております。

その岡野先生がお辞めになって1年が経ちました。聞くところによると体調を崩されているとのこと。早く元気になられ、前と同様な温かなお顔でまた私たちに色々お話を聞かせて頂きたいと思っております。これからもお元気でご活躍なさること、お祈り致しております。